

海外進学のための奨学金・費用サポート情報

はじめに

海外大学への進学には、進学先の国や大学によって異なりますが、多くの場合、まとまった費用が必要です。さらに、近年の円安の影響や、授業料・生活費の高騰の影響を受け、留学費用は以前よりも高くなる傾向があります。しかし、奨学金や学費のサポートを上手に活用することで、必要な経費を抑えることは十分に可能です。そのためには、出願前から奨学金の種類や出願方法についてリサーチを進め、自分に合った条件やスケジュールで申し込める奨学金を把握しておく必要があります。出願と並行し、奨学金に必要な書類や選考に向けた準備を進めましょう。

都立高校生が利用できる代表的な奨学金を紹介します。

①東京都の奨学金制度

東京都は、日本のグローバルリーダーの輩出を目的に、都立高等学校、都立中等教育学校の後期課程、都立特別支援学校の高等部の生徒を対象に給付型の海外大学進学支援制度を今年から新設しました。

・都立高校等海外大学進学支援制度(給付型奨学金)

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/global/global-university-support-program>

募集人数: 10名程度

応募資格(抜粋):

- (1) 応募時及び留学期間中にわたり、日本国籍を有する者
 - (2) 応募時までに在籍した全ての高校等における全履修科目の評定平均値が、5段階評価で3.7以上に相当する者
 - (3) 留学先大学での主たる使用言語が英語である場合
- 応募時までに、TOEFL iBT(Internet-based Test) 80点以上、又はIELTS 6.0(Academic Module Overall Band Score)以上の得点を取得している者

対象となる大学:

- ・THE 世界大学ランキング総合順位 100位以内の大学
- ・QS 世界大学ランキング総合順位 100位以内の大学
- ・QS 世界大学ランキング科目別順位 10位以内(Music、Art and Design、Performing Arts、Sports-Related Subjects)

対象課程: 学士課程または、大学入学準備コース

進学開始時期: 募集翌年の4月1日から翌々年の3月31日まで

対象世帯と支給額: 授業料から130万円(国内私大授業料相当額)を差し引いた残余を都が支援(世帯収入によって異なるが、交付上限額は800万円)

②独立行政法人日本学生支援機構の奨学金

○給付型: 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金

(https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kaigai_kyufu.html)

募集人数: 未定(2026年度採用人数140名)

対象大学: 学士の学位を授与できる諸外国の大学または、大学入学準備コース(短期大学やコミュニティ・カレッジ等に入学し、大学に編入学して学士の学位取得を目指す場合は、制度対象外)

応募資格(抜粋):

(1)日本国籍を有する者又は日本への永住が許可されている者(特別永住者を含む。)

(2)留学先大学で主たる使用言語が英語の場合

応募時までに、TOEFL iBT 4.0(Overall Score)以上(2026年1月21日以降に受験の場合)、80(Total Score)以上(2026年1月20日以前に受験の場合)、又はIELTS 6.0(Academic Module Overall Band Score)以上の得点を取得している者

(3)応募時までに在学した全ての高等学校等における全履修科目の評定平均値が、5段階評価で3.7以上に相当する者

支給額:月額139,000円～352,000円

○貸与型(低金利・無利子):独立行政法人日本学生支援機構の奨学金

(<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kaigai/index.html>)

進学前(予約採用)と進学後(在学採用)の2種類があります。

①進学前(予約採用)

・学力基準:

以下のいずれかを満たす必要があります。

(1)国内の学校における申込時までの全履修科目の学習成績が平均水準以上であること。

(2)特定の分野において、特に優れた資質能力を有すると認められること。

(3)海外の大学における学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められること。

・家計基準:

生計維持者の貸与額算定基準額が、381,500 円以下であること。

②進学後(在学採用)

・学力基準:

大学が定める学位取得までの最短修業年限内に卒業見込みであること。

・家計基準:

生計維持者の貸与額算定基準額が、381,500 円以下であること。

③財団支給の奨学金

代表的な財団を紹介します。

○柳井正財団 (<https://www.yanaitadashi-foundation.or.jp/application/>)

応募資格(抜粋):

- (1)将来、グローバルな知見を持って各分野をリードし、日本社会の発展に貢献し得る素質を持つ者
- (2)在学期間中を通じて日本国籍を有する者
- (3)本奨学金プログラムへの出願時点で、原則、語学試験(TOEFL iBT 90、4.5 又は IELTS 6.5 以上)及び学力試験(SAT1400 又は ACT31 又は IB38 以上)のスコアを保持している者
- (4) 財団が指定する年度の家計支持者の所得が 2,700 万円以下である者
他

給付金額:

奨学生 1 名当たり奨学生 1 名当たり原則年間 US\$115,000(英国は£70,000)を上限とし、財団が大学ごとに必要な費用(授業料、寮費、保険料)を算出し支給

募集人員:

公募制学校推薦海外大学奨学金(予約型):年間 20 名程度

公募制海外大学奨学金(合格型)年間 20 名程度

○笹川奨学金(<https://scholarship.spf.org/application-guide/>)

応募資格(抜粋):

- ① 財団が指定する米国・英国の大学への入学の許可を得た者で、翌秋に第一学年への入学を目指す者
- ② 出願先大学が定める出願条件を遵守することに合意した者。
- ③ 日本国籍を有する者
- ④ 年齢制限、所得制限はありません

給付金額：

定額奨学金 ・米国 ・US\$15,000/年、英国 ・£11,000/年

ほかにも、

江副記念リクルート財団

(<https://www.recruit-foundation.org/>)

グルー・バンククロフト基金(<https://grew-bancroft.or.jp/>)

などがあります。

まとめ

奨学金の獲得は倍率や要件が高くなる傾向があり、決して容易ではありません。しかし、事前準備やリサーチを十分に進めてから応募を行えば、可能性は広がります。

[参考]自分に合った海外留学奨学金を見つけるために

海外留学奨学金検索サイト：

https://ryugaku.jasso.go.jp/form/search.php?f=scholarship_abroad.html

上記のサイトでは、「留学を希望する課程」「国・地域」「専攻分野」などの条件を選択して検索したり、「気になる奨学金」や「奨学金団体名」から検索したりすることで、自分に合った奨学金の概要を確認できます。

気になる奨学金を見つけたら、奨学金団体の公式サイトなどで最新の募集情報や応募条件を確認し、正確な情報を入手しましょう。